

## 読み聞かせリスト(5才~6才) ※[ ]内は書架番号

	書名	著者名	出版社	抄録 (TRCマークより)
1	いじわる	せなけいこ 作・絵	すずき出版 2012年 [319]	ある日、たあぼうは雪だるまを作り、おひさまに「あっちいけ」と言った。怒ったおひさまは、いじわるな気持ちになって、雪だるまをとかしてしまった。今度は、たあぼうがいじわるな気持ちでたどんを投げると、雲にぶつかり…。
2	あのかへんなこ	ワダアスカ 作・絵	文芸社 2018年 [316]	シカのような角、ラクダのような顔、ヘビのような体、トラのような足。へんてこな姿をしているために、みんなから「ヘンナコ、へんてこなこ」と呼ばれていたヘンナコでしたが…。自分に自信を持てるようになる物語
3	あしによきによきによき	深見春夫 作・絵	岩崎書店 2015年 [316]	ポコおじさんは、庭に落ちてきた大きな豆を煮て食べました。「なんておいしい豆なんだろう!」ところが食べおわると、左の足が大きくなって、によきによきのひはじめ…。
4	えんそくおにぎり	宮野聡子 作	講談社 2013年 [316]	今日は遠足の日。お弁当を持って山登りにいきます。きみちゃんは大好きなおにぎりをお母さんといっしょにつくことになりました。うまくにぎれるかな? 行事と食べもののよみきかせ絵本。
5	おばけぼうやのみずじごくうたうためぐり	川北亮司 文 中谷靖彦 絵	くもん出版 2009年 [316]	弱虫のおばけぼうやが、修行のために水地獄めぐりへ。怖さを振り払うため、ことばあそびの歌を歌いながら、奥へ奥へと進んでいくと…。おばけとことば遊びがいっぱいの楽しい絵本。
6	おこらせるくん	のぶみ 作	KADOKAWA 2017年 [317]	朝、なかなか着替えない。「遅刻しちゃう!」と言っても聞かない。むやみにかっこつける。そんな「おこらせるくん」を、ママは怒ってばかり。でも、それはね…。日本中のママの「怒ってしまう理由」を詰め込んだ絵本。
7	ノラネコぐんだん そらをとぶ	工藤ノリコ 著	白泉社 2016年 [319]	飛行場にあらわれたノラネコ軍団。かっこいいね、のりたいね、と飛行機にしのび込んでレバーをガッチャン! 無事飛び立ったものの、燃料が入っていないで…。
8	ぼくとばく — ひとつもじいれかえあそび —	鈴木のりたけ 作	小学館 2017年 [317]	不思議な「ばく」のしわざで、ばく色になってしまった「ぼく」。元に戻してもらおうとばくを追いかけるけれど…。頭の文字を入れ替えると、ガラッと意味が変わってしまう言葉の面白さを楽しむ絵本。
9	ふまんがあります	ヨシタケシンスケ 作・絵	PHP研究所 2015年 [317]	どうして、子供だけはやく寝なくちゃいけないの? どうして弟が悪いのにわたしばっかり怒られるの? 大人にちゃんと文句をいって、ズルいのをやめてもらおう! ヨシタケシンスケのユーモア絵本
10	山びこくん	たかはしゆうじ 作	文芸社 2016年 [317]	山に登る人たちの「やっほー」にこたえるのが、山びこくんのお仕事です。どんな時も、「自分勝手に喋ってはいけない」というルールを守っていた山びこくんですが、ある日、雨が降り続いて…。

## 読み聞かせリスト(5才~6才) ※[ ]内は書架番号

	書名	著者名	出版社	抄録 (TRCマークより)
11	オレ、カエルやめるや	デヴ・ペティ 文 マイク・ボルト 絵 こばやしけんたろう 訳	マイクロマガジン社 2017 [321]	カエルであることがイヤなカエル。ぬれてるし、ヌルヌルしてるし、ムシばかり食べてるし。それよりも、もっとかわいくて、フサフサの動物になりたいのです…。読み聞かせが楽しいユーモア絵本。
12	ねこのピートだいすきなしろいくつ	ジェームス・ディーン 大友剛 訳 長谷川義史 文字画	ひさかたチャイルド 2013年 [318]	ねこのピートは新しい白い靴でお出かけ。うれしくて歌いながら歩いていると、イチゴの山に登ってしまい、靴が真っ赤に。ピートは悲しんだかという…。読みながら子どもとのかけあいが楽しめる絵本。
13	そうべえときじむなー	たじまゆきひこ作	童心社 2018年 [320]	軽業師のそうべえ、医者のおちくあんたち4人は、気球にのって、琉球王国へ。途中、海に落ちそうになったところ、心のやさしい妖怪きじむなーに助けられるが…。「じごくのそうべえ」シリーズ。
14	ぼくがいちばん!すごいでしょ	サトシン 作 山村浩二 絵	PHP研究所 2018年 [320]	動物たちがいいところ自慢をしています。からだが大きいゾウ、走るのが速いチーター、かくれんぼが得意なカメレオン…。なかでもいちばんすごいのはだれ? いろんないちばん、みんなすごい! 前向きな気持ちになれる絵本。
15	ぼくもあつたらいなあ	いさお名ゴ支部 作絵	FECオフィス 2018年 [314]	自分にはない、ほかの動物たちのとくちょうをうらやましく思っている沖縄のヤギ。キリンの長い首、鳥のつばさ、魚の泳げるからだがあつたらいなと、自分がそんな動物になったところを想像した。すると…。
16	うみのそこたんけん	中川ひろたか ぶん 澤野秋文 え	アリス館 2016年 [324]	海の底ってどんなふうになってるんだろう? 海で遊んでいたぼくがそう思ったとき、大きな「うみぼうず」があらわれて、海の水をぐくぐく飲んだ。すると、島だと思っていたところは山で…。
17	そらの100かいだてのいえ	いわいとしお[作]	偕成社 2017年 [324]	ある雪の日、おなかを空かせたシジウカラのツピくんは、一粒のひまわりの種を見つけました。ツピくんは、花を咲かせて種を増やそうと考え、植える場所を探して、空へ飛び立ちます。
18	むしたちのさくせん	宮武頼夫 文 得田之久 絵	福音館書店 2000年 [324]	野原で虫たちを見つけるのはむずかしい。虫のからだはまわりの草や地面の色とそっくりだから。バッタやガは、鳥やトカゲたちに食べられないように、かくれんぼ作戦をしているんだ。虫たちの生態を紹介する絵本。
19	まほうのコップ	藤田千枝 原案 川島敏生 写真 長谷川摂子 文	福音館書店 2012年 [324]	たねもしかけもありません。水の入ったコップの後ろにいちごを置くと、いちごがぐんにやりつぶれてしまいました。次にきのこのしめじを置くと、まるで、がまがえるような形に見えて…。
20	よるになると	松岡達英 作	福音館書店 2015年 [324]	昼の公園には、花の蜜をもとめて虫たちが集まる。夜の公園では、湿った枯れ葉をダンゴムシが食べる。昼の草原、夜の草原、昼の川、夜の川…。生き物たちがくらす昼と夜の世界を、対比させて丁寧に描いた絵本。